

# 道東太平洋沖の流速場（2018年04月 海況速報No.181 付記）

2018/05/02

中央水産試験場 海洋環境G、釧路水産試験場、函館水産試験場

釧路水産試験場所属試験調査船「北辰丸」による、流れの調査結果をお知らせします。（水温観測結果は「北辰丸」および、函館水産試験場所属「金星丸」の結果を使用しています。）

**親潮：** 親潮の本流（O1：流速30～60cm/s程度（100m深））は根室の沖合を西南西に流れており、そのまま岸に沿って襟裳岬の東側を南下する流路をとっています。南下した親潮は41°N付近で方向を変え、水温前線（親潮前線）に沿って東向きの流れ（RO1）を形成しています（図1、2）。この親潮前線の北側には、親潮水（100m深 5℃以下）が広く分布しています（図2）。

**暖水：** 襟裳の南（41°N、143°N）に例年より3～4℃高い暖水（100m深7℃以上）が分布しています（図2）。襟裳岬の東側には暖水は分布していません。

**今後の見通し：** 現在、暖水塊などの親潮の南下を阻害する要因は見られません。しかし、道東沖における親潮水の水温が例年よりも高めなうえ（図2）、親潮面積が、本来は大きく広がる季節にも関わらず、平年に比べて非常に狭いことなどから（※）、今年は親潮の勢力自体が弱いと考えられます。今後もこの傾向が続けば、今年は南からの暖水が道東沖に北上してくる可能性も考えられます。今後の情報にご注意下さい。

※参考気象庁HP：[http://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/data/db/kaikyo/oyashio/oyashio\\_area.html](http://www.data.jma.go.jp/gmd/kaiyou/data/db/kaikyo/oyashio/oyashio_area.html)

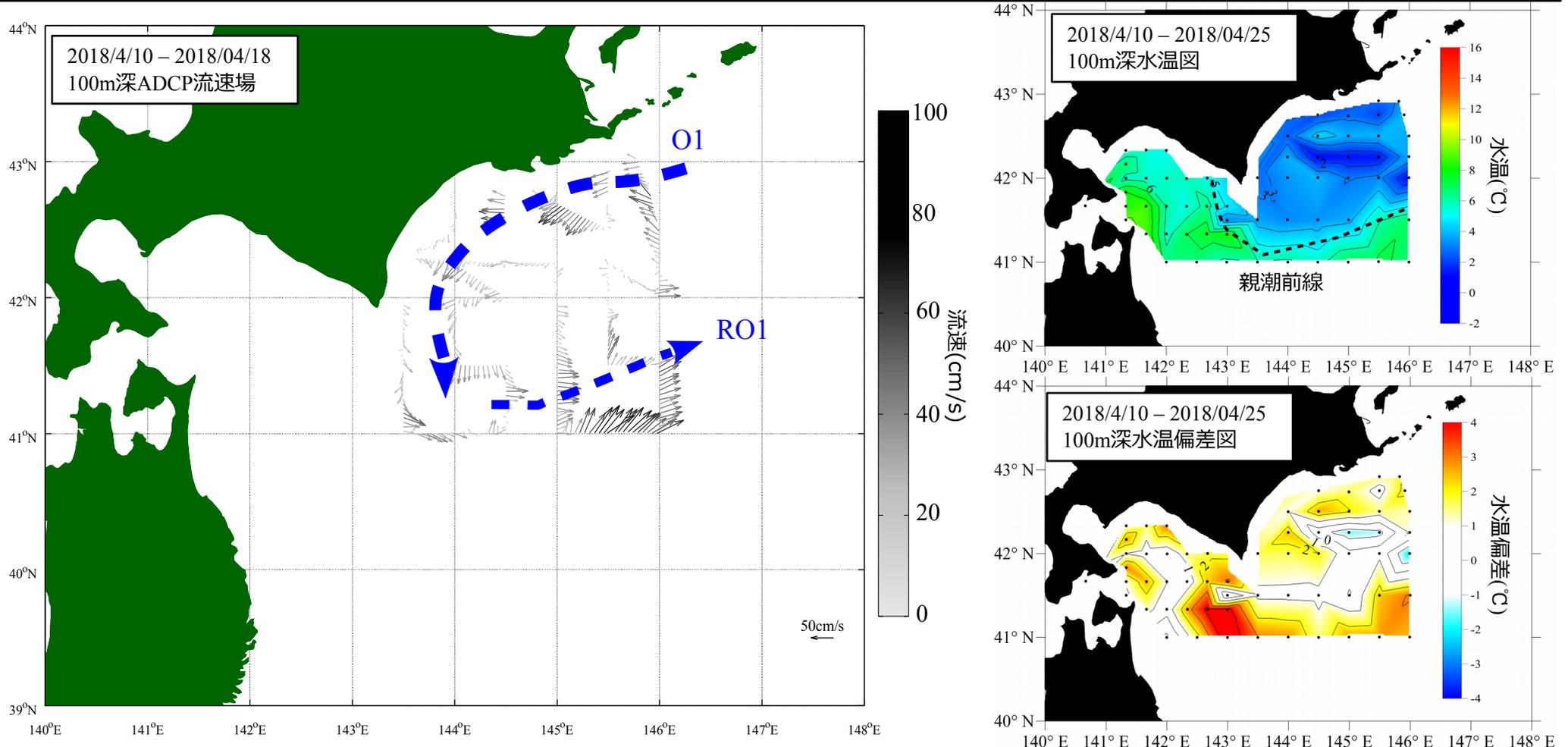


図1 ADCPによる100m深の流速場と模式図。実線矢印は向きでその場所の流向を、長さや色の濃淡が流速を表す。点線矢印は推定された親潮（青）の流れの模式図

図2（上）100m深水温図  
（下）100m深水温偏差図（1989～2008年平均からの差）